

水田裏作におけるバーシーム・クローバーの導入とその栽培法について

郡山秀文・松本巧

水田裏作に導入する早刈利用のマメ科牧草としてバーシーム・クローバーをとり上げ、品種ならびに栽培法に関する試験を行なった。

1. マメ科草種について比較した結果、バーシーム・クローバーは初期生育が速く、再生も良好で、収量成績も最も優っていた。生草収量はバーシーム>レンゲ>コモンベッチ>アカクローバー>ルーサンの順であり、乾草収量ではバーシーム>ルーサン>アカクローバー>ベッチ>レンゲとなっている。

クローバー類品種試験の結果はバーシームクローバー・キアーサンドリアおよびエジプト系は早期に刈取りできて多収を示し、他のクローバー類にくらべて良好な成績を示した。

2. バーシーム・クローバーの採種量について。a 当り 300 g までは増収率は高いが、それ以上、厚播してもあまり多収にならず、250 g 位が生育収量ともに最も成績がよく、播種適量と考えられる。播種様式については一般に播種面積率の高い広巾播ほど収量が多く、全面撒播の栽培が最も成績がよかった。

3. バーシーム・クローバーの播種期は一般に早播ほど刈取回数を増し、また多収の傾向である。10月5日播を境にそれより早播と晩播の生育収量に著しい差が見られた。しかしあまり早播してもそれほど増収の効果は見られず、したがって播種期の中は9月上旬から10月初頃までの1月間であり、大体9月中旬頃が播種の適期と考えられる。

4. バーシーム・クローバーとイタリアンライグラスを混播栽培する場合、バーシームの播種量が少ないと、イタリアンの生育におさえられて、バーシームの生育収量ともに劣り、混播の効果は少ない。したがって、両草種の混播種子の割合はバーシーム・クローバーの播種量をかなり多くして、a 当り約 300 g とイタリアン 50 g 位が両草種の生育競合ならびに全収量および混草率の点などから最も適当であろう。